

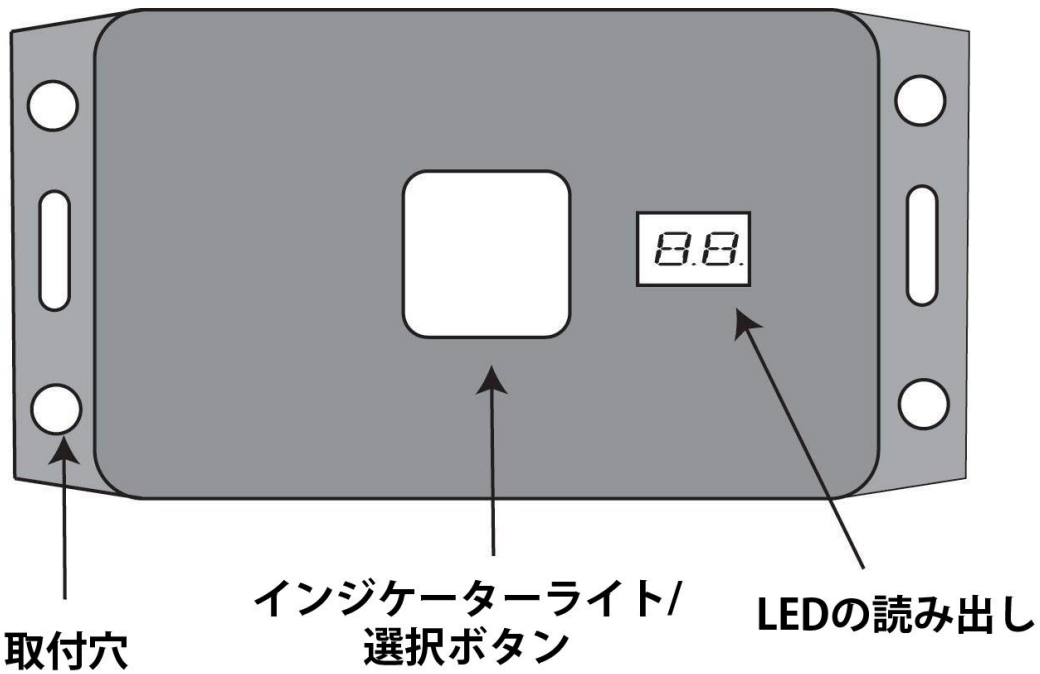
LogiCue(ロジキュー) 12 マニュアル

2021/4/12

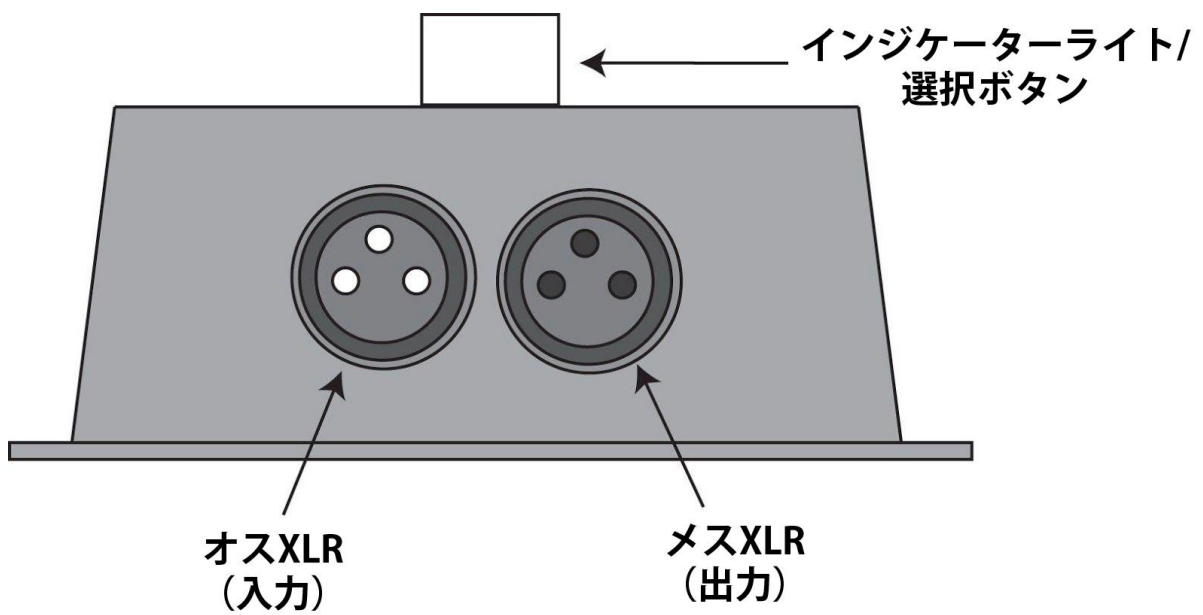


3. キューライト

上面図



側面図



取付穴

パネルの裏面にネジで取り付けたり、紐で吊るしたりできるよう取り付け穴をご用意しました。

インジケータライト/選択ボタン

インジケータライトは、3色のLEDで、選択ボタンとしても機能します。詳細については、次のセクションを参照してください。

LED読み出し

LED読み出しは、メニューをナビゲートするときにカラーまたはアドレスを示すために使用されます。QL1の電源がオンになり、正常な信号を受信すると、読み取り値の小数点が点灯するため、ケーブルによる問題のトラブルシューティングに役立ちます。

カラーモードの選択

キューライトのカラーモードの選択は簡単です。

コントローラーからのケーブルを差し込むときに選択ボタンを押し続けるか、コントローラーの電源スイッチをオンにするときに選択ボタンを押し続けます。

インジケータライトが赤に変わり、小文字の「r」がLEDディスプレイに表示されます。ボタンを離してもう一度押すと、次の色に進みます。設定したい色が表示されるまで続けます。好みの色になったら、キューライトを抜くか、電源を切ります。電源を入れ直すかプラグを差し込むと、選択したカラーモードで動作します。キューライトは、そのカラーモードを記憶します。次のページの図は、各カラーと各カラーモードの表示内容を示しています。



Red/Green/BlueとRed/Green モード

Red/Green/Blueモードになっている場合、キューライトが”Standby”モードになっていると、インジケータライトが赤く点灯します。”Go”モードに入ると、インジケータライトが緑に点灯します。”Go”ボタンを2回押すか、コントローラーのマスタークリアを押すと、インジケータライトが青に点灯します。

キューライトをRed/Greenモードにすると、操作はRed/Green/Blue モードと同じになりますが、インジケータライトが青にならず、OFFになります。

アドレスの選択

LogiCue6には最大6つまでの異なるアドレス、LogiCue12には最大12つの設定が可能で、接続されている順序に関係なく個別に制御できます。アドレスを設定するためには、キューライトをコントローラーに接続し、電源をONにしてください。キューライトが点灯し、小数点が1つ表示されたら（電力と信号を受信していることを示すため）、LEDディスプレイに数字が表示されるまで選択ボタンを長押ししてください。ディスプレイに表示される最初の番号は、キューライトにプログラムされた最後のアドレス番号です。セレクターボタンを離し、もう一度ボタンを押すと、次のチャンネルに進みます。希望のチャンネルに到達したら、約5秒間待ちます。アドレスが内部メモリに記憶され、表示が小数点以下1桁に戻ります。



キューライトはLogiCue6とLogiCue12コントローラーのどちらにでも使用可能です。

セルフテスト機能

セルフテスト機能によりすべてのキューライトが接続され、適切にアドレス設定されていることを確認することができます。すべてのキューライトにアドレスを設定後、電源スイッチをオフにしてから再度オンにします。

正常にシステムが稼働している場合（キューライトが接続されてアドレス設定されている）、各”Go”ボタンの上にあるLEDが緑に点灯します。

電源を最初にオンにしたときにコントローラーのLEDのいずれかが点灯しない場合は、キューライトへのケーブルが外れているか、アドレス設定がされていない可能性があります。

インジケータの明るさ

LogiCue12のLEDインジケータの明るさは調整可能です。

明るさを調整するには、コントローラーの電源をオフにした状態で、“Master Go”ボタンを押しながら電源スイッチをオンの位置にします。下の写真のように、LEDインジケータは12の異なるレベルの明るさを表示します。LEDインジケータの下にある“Standby”ボタンを押して、希望の明るさのレベルを選択します。“Master Clear”ボタンを押してこのモードを終了するか、電源スイッチをオフにしてから再度オンにして通常の操作を再開します。



DMX出力

機能と利便性を高めるために、LogiCue12にはコントローラーの背面に5ピンDMXコネクタがあります。

DMXコネクタは、DMX-512を出力します。DMX出力を使用すると、LogiCue 12コントローラーを使用して、キューライト以外の他のデバイスのオンとオフを切り替えることができます。最初の12のアドレスは、単純なオン/オフ状態でLogiCueステータスを出力します。LogiCueチャンネルがスタンバイの場合、そのアドレスのDMX出力は100%になります。“Go”ボタンを押すと、対応するアドレスのDMX出力は0%になります。次の12のアドレスには、LogiCueシステムの将来のアクセサリに使用される生のLogiCueデータが含まれています。

4. トラブルシューティング

コントローラーがオンにならない

コントローラーの電源が入らない場合は、キューライトに接続されている出力マイクケーブルを抜いてください。コントローラーの電源をオフにしてから、再度オンにします。コントローラーがオンになっている場合、問題はケーブルの不良です。正常なケーブルをコントローラーに接続することから始め、最初のキューライトを接続し、他のすべてのキューライトにリンクされているマイクケーブルを抜いてください。コントローラーと最初のキューライトが機能する場合は、不良ケーブルが見つかるまで、残りのケーブルを1つずつ確認します。

コントローラーはオンになるがキューライトは機能しない。

正常なケーブルをコントローラーに接続することから始め、最初のキューライトを接続し、他のすべてのキューライトへ連結されているマイクケーブルを抜いてください。最初のキューライトが機能する場合は、不良ケーブルが見つかるまで、残りのケーブルを1つずつ確認します。ディスプレイには、キューライトが電力と信号を受信していることを示す小数点が1つあることを確認してください。

すべてのキューライトがスタンバイに反応してチャンネルナンバー1のみに反応する。

キューライトは出荷時の初期設定では、デフォルトで1に設定されています。アドレスを設定すると、メモリに記憶されます。

コントローラーの電源をオンにしたときに、1つまたは複数のLEDが緑で点灯しない。

正常に稼働している(キューライトへのマイクケーブルが接続されてアドレス設定されている)キューライトが接続されている場合、コントローラーのインジケータは緑色に点灯します。例えば、コントローラーのチャンネル1の”Go”ボタンの緑のライトが点灯しない場合は、キューライトナンバー1のプラグが抜かれているか、キューライト1のアドレスが誤って別の番号に変更された可能性があります。すべてのキューライトが接続され、電源がオンになっていて、正しくアドレス指定されていることを確認して下さい。